

**平成24年(2012年)3月期
第3四半期決算
投資家様向け説明会**

**2012年1月27日
オムロン株式会社**



目次

1. 当社の現状認識	...	P. 2
2. 第3四半期業績結果	...	P. 4
3. 第4四半期業績見通し	...	P.14
4. 通期業績見通し	...	P.20
5. 関連トピックス		
(1) サプライチェーンマネジメントのBCP実行	...	P.24
(2) VG2020の取り組み	...	P.28
(3) ガバナンス、ディスクロージャーに対する外部評価	...	P.30
6. 参考資料	...	P.34



当社の現状認識



- **今年度は激動の1年。最大の課題である供給責任を果たし、サプライチェーンマネジメントのBCPを発動し、影響を最小限にとどめた。**
- **3Q後半より制御機器需要が欧州・中国で悪化している。
通期の全社売上はIABの減少をHCB・AECなどでカバーし、前年度並を見込む。
供給責任をまっとうするために3Q半ばまで在庫を積み増してきたが、IAB売上の減少に伴い過大となった。4QにIAB・EMCにおいて生産調整を行うため、通期の業績見通しを下方修正する**
- **来年度は増収増益を目指し、引き続きVG2020で掲げた戦略投資を継続し、M&Aを積極的に検討する**
- **なお、期末配当予想は中間と同額の14円(年間で28円)とする**



第3四半期業績結果



連結損益計算書(3Q)

- 売上はほぼ前回見通しどおりだが、営業利益は前回見通しを下回る
- 10・11月に引き続き在庫を積み増し、生産付加価値が増加した。12月に入りABの需要減少により生産調整を行ったため、売上総利益率は前回見通しを下回る
- 営業外費用の増加は、主にタイの洪水による在庫・設備の廃棄損(ただし、4Qに保険求償によりフルカバー)
- 四半期純利益の減少は法人税率引下げに伴う繰延税金資産の取崩し(△54億円)によるもの

(億円)

	2012/3期 3Q (前回見通し)	2012/3期 3Q	前回見通し 比・差	2011/3期 3Q	前年同期 比・差
売上高	1,527	1,496	△2.0%	1,534	△2.5%
売上総利益 (売上総利益率)	575 (37.6%)	543 (36.3%)	△5.6% (△1.3P)	585 (38.2%)	△7.3% (△1.9P)
販管費	380	361	△5.0%	354	+1.9%
R&D費	115	108	△5.6%	104	+3.7%
営業利益 (営業利益率)	80 (5.3%)	74 (5.0%)	△7.7% (△0.3P)	127 (8.3%)	△41.7% (△3.3P)
営業外費用	11	22	+104.7%	3	+608.1%
税引前四半期純利益	70	53	△24.1%	124	△57.8%
四半期純利益	46	△14	-	82	-
USDレート(円)	76.0	77.6	+1.6	82.9	△5.3
EURレート(円)	103.0	104.9	+1.9	111.8	△6.9

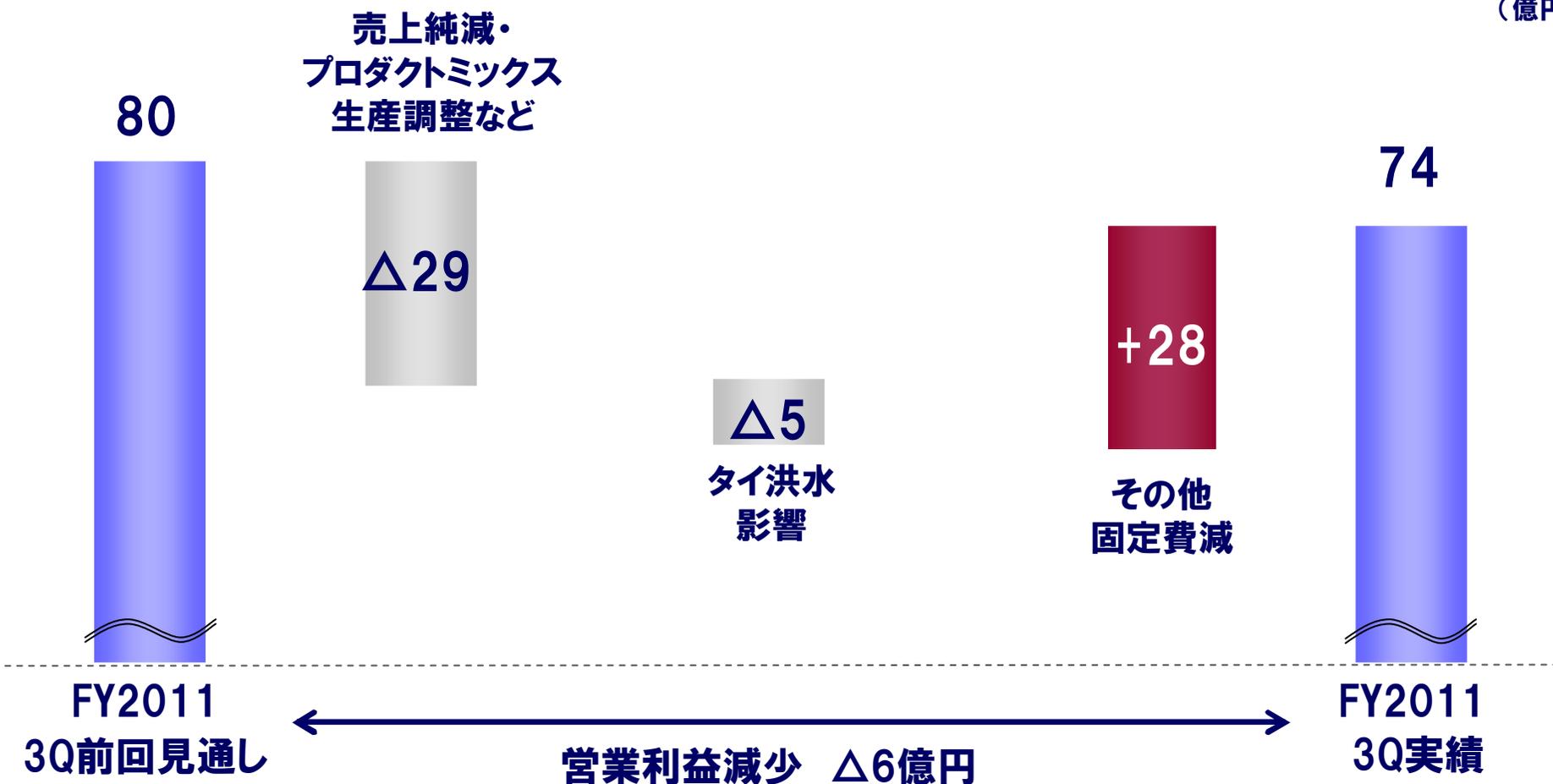
※2012/3期3Q (前回見通し) は未公表の内部管理数値



営業利益増減分析(3Q) <前回見通し比>

- 販管費・R&D費の純減(4Qへの期ずれ)はあるが、売上純減・生産調整などにより前回見通しを下回る

(億円)





事業セグメント別業績(3Q)

- AEC・HCBの売上は前回見通しを上回る。ただし、AECの営業利益はタイの洪水の影響により若干未達
- IABの売上が見通し比減となり、EMCのFA関連売上にも影響を与え、IAB・EMCの営業利益が未達

(億円)

	売上高					営業利益				
	2012/3期 3Q (前回見通し)	2012/3期 3Q	見通し 比	2011/3期 3Q	前年同期 比	2012/3期 3Q (前回見通し)	2012/3期 3Q	見通し 比	2011/3期 3Q	前年同期 比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	665	627	△5.7%	673	△6.7%	75	64	△15.3%	81	△21.7%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	215	212	△1.4%	206	+3.0%	30	17	△41.7%	36	△50.8%
自動車用電子部品事業 (AEC)	203	212	+4.3%	211	+0.4%	5	4	△16.6%	13	△68.7%
社会システム事業 (SSB)	141	125	△11.1%	124	+1.4%	△5	△3	-	1	-
健康・医療機器事業 (HCB)	164	169	+3.3%	168	+1.0%	3	9	+190.3%	16	△44.5%
その他	127	133	+5.1%	135	△0.8%	△15	△9	-	△8	-
消去調整他(本社)	12	17	+37.7%	18	△10.0%	△13	△8	-	△12	-
合計	1,527	1,496	△2.0%	1,534	△2.5%	80	74	△7.2%	127	△41.7%

※2012/3期3Q(前回見通し)は未公表の内部管理数値



事業セグメント別業績概況(3Q)

セグメント	売上高、営業利益の前回見通し比での概況	
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	売上高	国内： ほぼ前回見通しどおりの推移 海外： 欧州・中国の在庫調整、需要減少により前回見通しを下回る
	営業利益	売上減により、前回見通しを下回る
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	売上高	国内： アミューズメント機器が好調に推移し、前回見通しを上回る 海外： タイの洪水、欧州の景気停滞により前回見通しを下回る
	営業利益	中国、欧州におけるFA関連の売上減少、生産調整などにより前回見通しを下回る
自動車用電子部品事業 (AEC)	売上高	国内： タイの洪水による顧客の生産調整により前回見通しを下回る 海外： タイ工場の生産がストップし前回見通しでは売上減を見込んだ 日本で生産した代替分をタイから出荷したため、前回見通しを上回る
	営業利益	タイの洪水のコスト増により前回見通しを下回る
社会システム事業 (SSB)	売上高	一部顧客の投資抑制等により前回見通しを下回る
	営業利益	固定費削減により前回見通しを上回る
健康・医療機器事業 (HCB)	売上高	国内： 健康機器の売上増により前回見通しを上回る 海外： 中国の景気停滞により前回見通しを下回る
	営業利益	国内の売上増により前回見通しを上回る
その他 (環境・バックライト・MD・電子)	売上高	バックライトの売上増により前回見通しを上回る
	営業利益	売上増により、前回見通しを上回る

※前回見通しは未公表の内部管理数値



参考：連結損益計算書(3Q累計)

- 売上高の前年同期比の為替影響額は△145億円
- 営業利益の前年同期比の為替影響額は△42億円、原材料の影響額は△34億円
(為替・原材料の影響を除くと、前年同期比で売上高+4%、営業利益+1%、売上総利益率+0.4P)

(億円)

	2012/3期 3Q累計 (前回見直し)	2012/3期 3Q累計	前回見直し 比・差	2011/3期 3Q累計	前年同期 比・差
売上高	4,560	4,529	△0.7%	4,513	+0.3%
売上総利益 (売上総利益率)	1,725 (37.8%)	1,693 (37.4%)	△1.9% (△0.4P)	1,714 (38.0%)	△1.3% (△0.6P)
販管費	1,096	1,077	△1.8%	1,047	+2.8%
R&D費	322	315	△2.0%	296	+6.5%
営業利益 (営業利益率)	308 (6.7%)	301 (6.7%)	△2.0% (±0.0)	372 (8.2%)	△18.9% (△1.5P)
営業外費用	27	38	+41.2%	12	+209.2%
税引前四半期純利益	281	263	△6.2%	359	△26.8%
四半期純利益	176	116	△33.9%	232	△49.8%

USDレート(円)	78.6	79.2	+0.6	86.9	△7.7
EURレート(円)	110.8	111.4	+0.6	113.5	△2.1

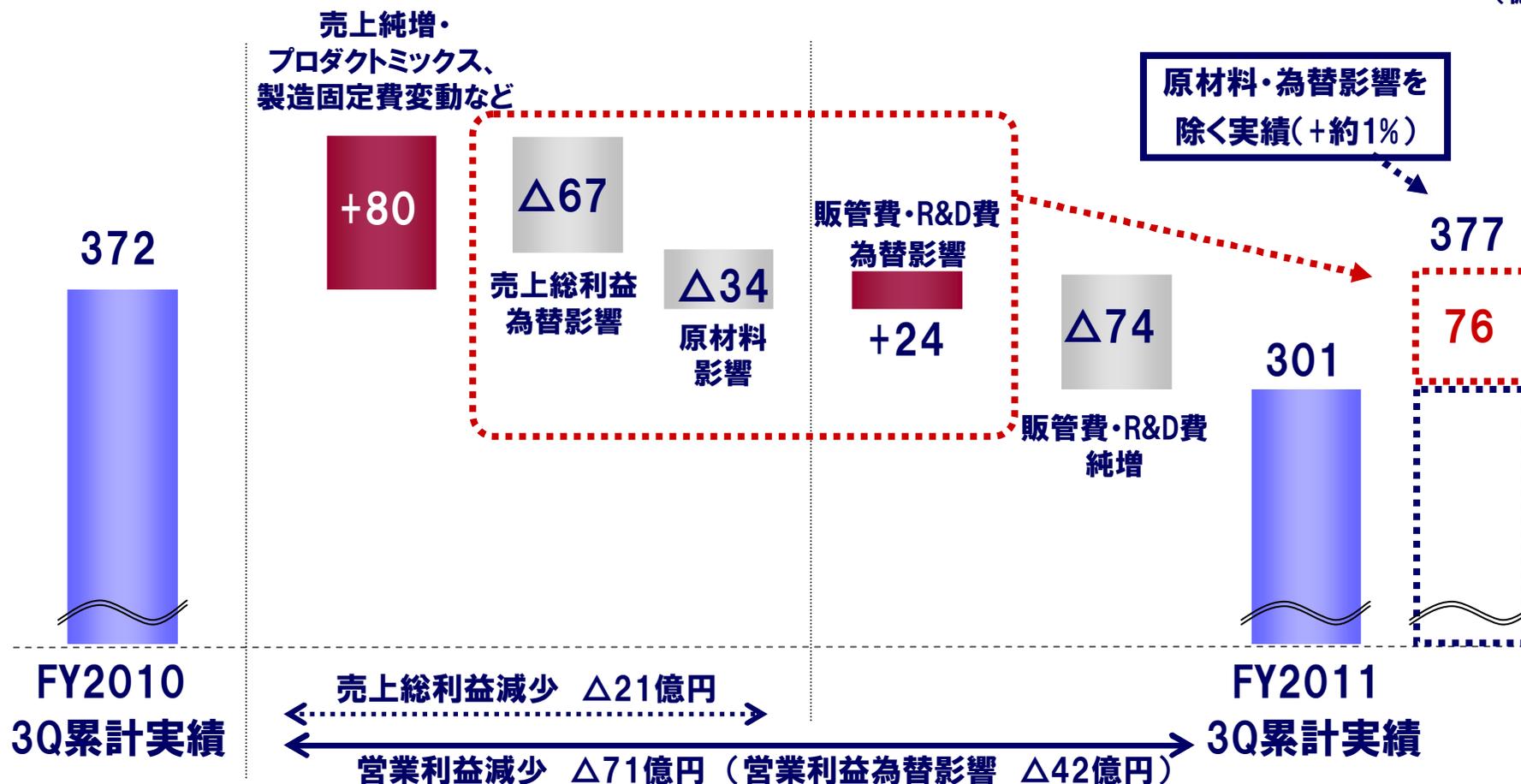
※2012/3期3Q累計(前回見直し)は未公表の内部管理数値



参考： 営業利益増減分析(3Q累計) <前年同期比>

- 売上は純増となったが、販管費・R&D費の純増、為替・原材料の影響により営業利益は76億円の減少（為替や原材料などのマイナス影響76億円を除くと、ほぼ前年同期並）

(億円)





参考：事業セグメント別業績(3Q累計)

- IAB・EMC・HCBは厳しい環境下でも前年同期比で売上拡大
- IABの営業利益は、生産増による付加価値を含み、前年同期並みの278億円

(億円)

	売上高					営業利益				
	2012/3期 3Q累計 (前回見通し)	2012/3期 3Q累計	見通し 比	2011/3期 3Q累計	前年同期 比	2012/3期 3Q累計 (前回見通し)	2012/3期 3Q累計	見通し 比	2011/3期 3Q累計	前年同期 比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	2,097	2,059	△1.8%	2,036	+1.1%	289	278	△4.0%	288	△3.5%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	623	620	△0.5%	608	+1.9%	72	59	△17.5%	101	△41.8%
自動車用電子部品事業 (AEC)	604	613	+1.5%	637	△3.9%	19	18	△4.3%	39	△52.5%
社会システム事業 (SSB)	346	330	△4.5%	348	△5.2%	△40	△38	-	△22	-
健康・医療機器事業 (HCB)	458	463	+1.2%	459	+0.9%	24	29	+24.1%	39	△24.0%
その他	389	395	+1.7%	377	+4.7%	△35	△29	-	△33	-
消去調整他(本社)	45	49	+10.2%	48	+2.7%	△21	△16	-	△40	-
合計	4,560	4,529	△0.7%	4,513	+0.3%	308	301	△2.0%	372	△18.9%

※2012/3期3Q累計(前回見通し)は未公表の内部管理数値



参考：連結貸借対照表(3Q末)

- CP償還、売上債権の減少、繰延税金資産の取崩しにより総資産は減少
- 株主資本比率は59%に上昇(2011年3月末56%)

(億円)

	2011年3月末	2011年12月末	2010年12月末 (参考)
資産の部	5,628	5,233	5,369
現預金	747	447	548
売上債権	1,353	1,227	1,256
在庫	862	1,023	953
繰延税金、その他流動資産	317	309	283
固定資産	1,200	1,179	1,164
投資その他資産	1,149	1,048	1,164
負債の部	2,491	2,151	2,244
短期借入金	455	297	345
長期借入金	8	0	9
支払い手形及び買掛金等	778	771	787
退職給付引当金	655	608	620
その他負債	595	475	483
純資産の部	3,137	3,082	3,125
資本金・その他剰余金等	4,236	4,322	4,235
その他包括利益(損失)累計額	△662	△803	△674
自己株式	△446	△446	△446
非支配持分	9	9	10
負債及び純資産合計	5,628	5,233	5,369



参考：連結キャッシュ・フロー計算書(3Q累計)

- 利益減と積極的な設備投資の実行により、FCFは前年同期を下回る
- 借入金の返済により財務キャッシュフローは減少。結果として現金残高は減少

(億円)

	2011/3期 3Q累計実績	2012/3期 3Q累計実績	2011/3期 実績(参考)
営業活動によるキャッシュフロー	264	130	420
投資活動によるキャッシュフロー	△129	△177	△202
フリー・キャッシュフロー (FCF)	135	△47	218
財務活動によるキャッシュフロー	△78	△225	33
換算レート変動の影響	△27	△28	△21
現金及び現金同等物の増減額	31	△300	230
四半期末の現金残高	548	447	747

設備投資	130	194	232
減価償却費	178	162	230

※3Q累計の設備投資額は、連結キャッシュ・フロー計算書の資本的支出を適用



第4四半期業績見通し



第4四半期の外部環境

▶ 地域別の事業環境

国内: 震災影響は解消。12月の水準を若干上回る

海外: 欧州における回復は見込めず、中国においては現状の景況感が継続

▶ 為替の対ドル・対ユーロの円高は継続(足元の水準が続く)

▶ 銀・銅の原材料価格は足元水準で安定

前提条件(為替、原材料の第4四半期の前提)

為替: USD ... 76円
EUR ... 98円

(前回見通し: USD ... 76円、 EUR ... 103円)

原材料: 銀 ... 80,000円/kg
銅 ... 600円/kg

(前回見通し: 銀 ... 80,000円/kg、 銅 ... 600円/kg)



連結損益計算書 (4Q見通し)

- 売上高は、ほぼ前回見通しどおり。IABの減少をEMC・AEC・SSBでカバー
- 売上総利益率および営業利益は積み増した在庫を削減するため生産付加価値が減少し、前回見通しを下回る

(億円)

	2012/3期 4Q (前回見通し)	2012/3期 4Q (今回見通し)	前回見通し 比・差	2011/3期 4Q	前年同期 比・差
売上高	1,640	1,621	△1.2%	1,665	△2.6%
売上総利益 (売上総利益率)	625 (38.1%)	572 (35.3%)	△8.4% (△2.8P)	603 (36.2%)	△5.0% (△0.9P)
販管費	364	389	+6.7%	377	+3.1%
R&D費	108	115	+6.0%	117	△1.9%
営業利益 (営業利益率)	152 (9.3%)	69 (4.2%)	△55.0% (△5.1P)	109 (6.5%)	△36.8% (△2.3P)
営業外費用	3	32	+970.6%	51	△37.7%
税引前四半期純利益	149	37	△75.4%	57	△36.0%
四半期純利益	94	24	△74.8%	36	△34.8%

USDレート(円)	76.0	76.0	±0.0	82.4	△6.4
EURレート(円)	103.0	98.0	△5.0	112.7	△14.7

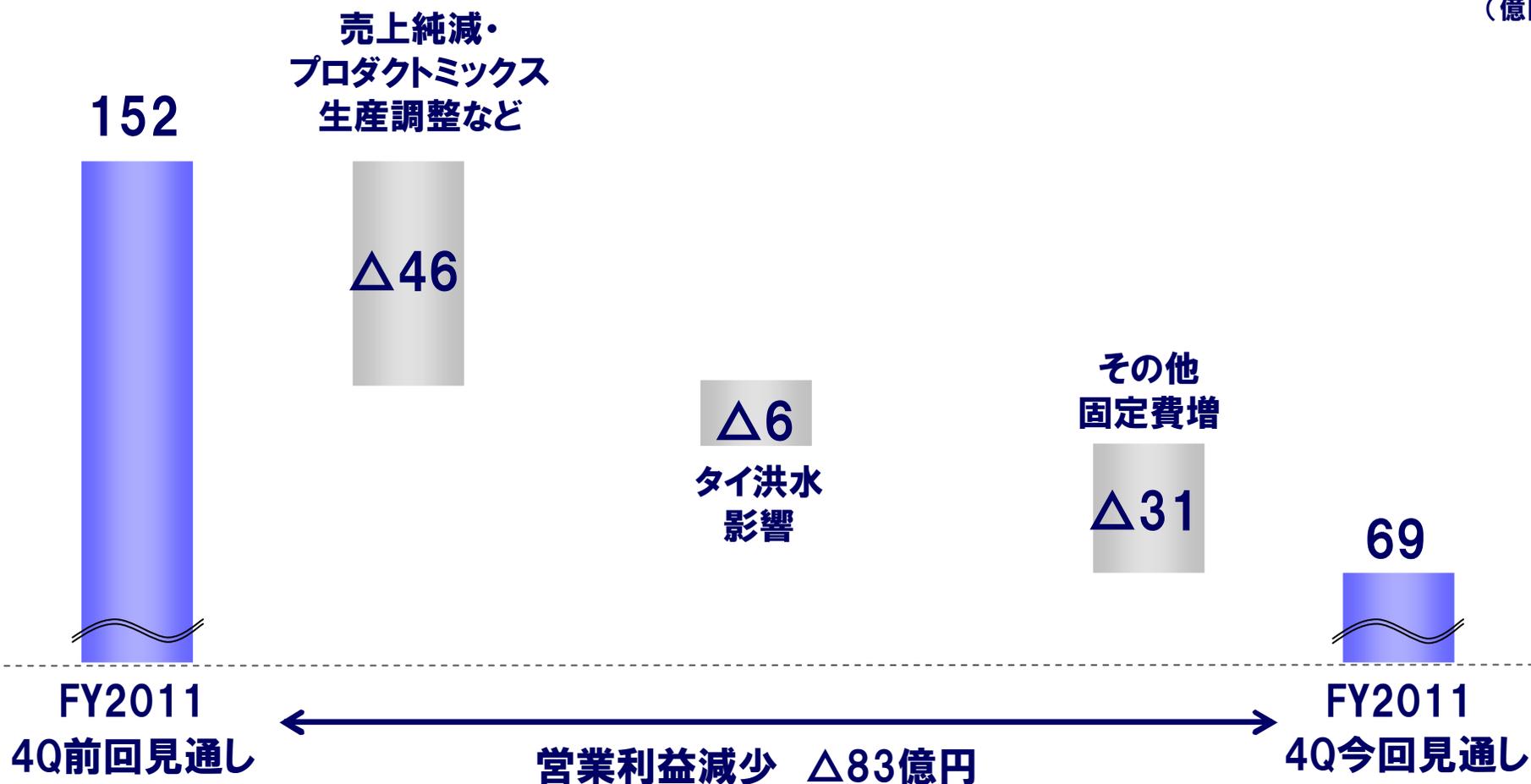
※2012/3期4Q (前回見通し) は未公表の内部管理数値



営業利益増減分析(4Q見通し) <前回見通し比>

- 販管費・R&D費の純増(3Qからの期ずれ)に加え、売上純減・生産調整などにより前回見通しを下回る

(億円)





事業セグメント別業績概況(4Q見通し)

事業セグメント	4Qの売上見通しに対する概況
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	国内: 工作機械・半導体業界の回復等により、前回見通しを上回る 海外: 欧州と中国の景気減速により、前回見通しを下回る
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	国内: アミューズメント機器の需要増により、前回見通しを上回る 海外: 海外での白物家電・通信機器市場の需要減により、前回見通しを下回る
自動車用電子部品事業 (AEC)	国内: 自動車メーカーの需要増により、前回見通しを上回る 海外: 北米・中国の需要増により、前回見通しを上回る
社会システム事業 (SSB)	一部売上の3Qから4Qへのシフトにより、前回見通しを上回る
健康・医療機器事業 (HCB)	国内: 新商品の販売好調を見込み、前回見通しを上回る 海外: 中国の消費低迷により、前回見通しを下回る
その他 (環境・バックライト・MD・電子)	スマートフォン向けバックライトの需要増により、前回見通しを上回る



事業セグメント別業績(4Q見通し)

- 急激な事業環境変化を受けながらも、EMC・AEC・SSBの売上は前回見通し比増
- IABの売上減によりIAB・EMCは生産調整を予定し、営業利益は前回見通し比減

(億円)

	売上高					営業利益				
	2012/3期 4Q (前回見通し)	2012/3期 4Q (今回見通し)	見通し 比	2011/3期 4Q	前年同期比	2012/3期 4Q (前回見通し)	2012/3期 4Q (今回見通し)	見通し 比	2011/3期 4Q	前年同期 比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	683	621	△9.1%	683	△9.1%	81	42	△47.6%	95	△55.2%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	202	210	+3.9%	204	+3.0%	33	21	△37.3%	18	+18.1%
自動車用電子部品事業 (AEC)	216	228	+5.2%	205	+10.8%	11	7	△39.0%	3	+141.0%
社会システム事業 (SSB)	244	250	+2.3%	291	△13.9%	40	38	△4.7%	38	△0.6%
健康・医療機器事業 (HCB)	157	157	△0.3%	147	+6.6%	6	3	△58.8%	2	+25.0%
その他	121	135	+11.2%	119	+12.9%	△10	△13	-	△13	-
消去調整他(本社)	15	21	+35.5%	15	+37.0%	△9	△29	-	△33	-
合計	1,640	1,621	△1.2%	1,665	△2.6%	152	69	△54.8%	109	△36.8%

※2012/3期4Q(前回見通し)は未公表の内部管理数値



通期業績見通し



連結損益計算書 (通期見通し)

- 激しい事業環境変化の中、370億円の営業利益を確保
- 為替・原材料の影響を除くと、前期比で売上高+3%、営業利益△1%、売上総利益率+0.3P
(前期比影響額: 売上高の為替影響△211億円、営業利益の為替影響△70億円・原材料の影響△34億円)
- 繰延税金資産の取崩し(△54億円)前の当期純利益は194億円の見通し

	2012/3期 (前回見通し)	2012/3期	前回見通し 比・差	2011/3期	前期 比・差
売上高	6,200	6,150	△0.8%	6,178	△0.5%
売上総利益 (売上総利益率)	2,350 (37.9%)	2,265 (36.8%)	△3.6% (△1.1P)	2,317 (37.5%)	△2.2% (△0.7P)
販管費	1,460	1,465	+0.3%	1,424	+2.9%
R&D費	430	430	±0.0	413	+4.1%
営業利益 (営業利益率)	460 (7.4%)	370 (6.0%)	△19.6% (△1.4P)	480 (7.8%)	△23.0% (△1.8P)
営業外費用	30	70	+133.3%	63	+10.3%
税引前純利益	430	300	△30.2%	417	△28.0%
純利益	270	140	△48.1%	268	△47.7%

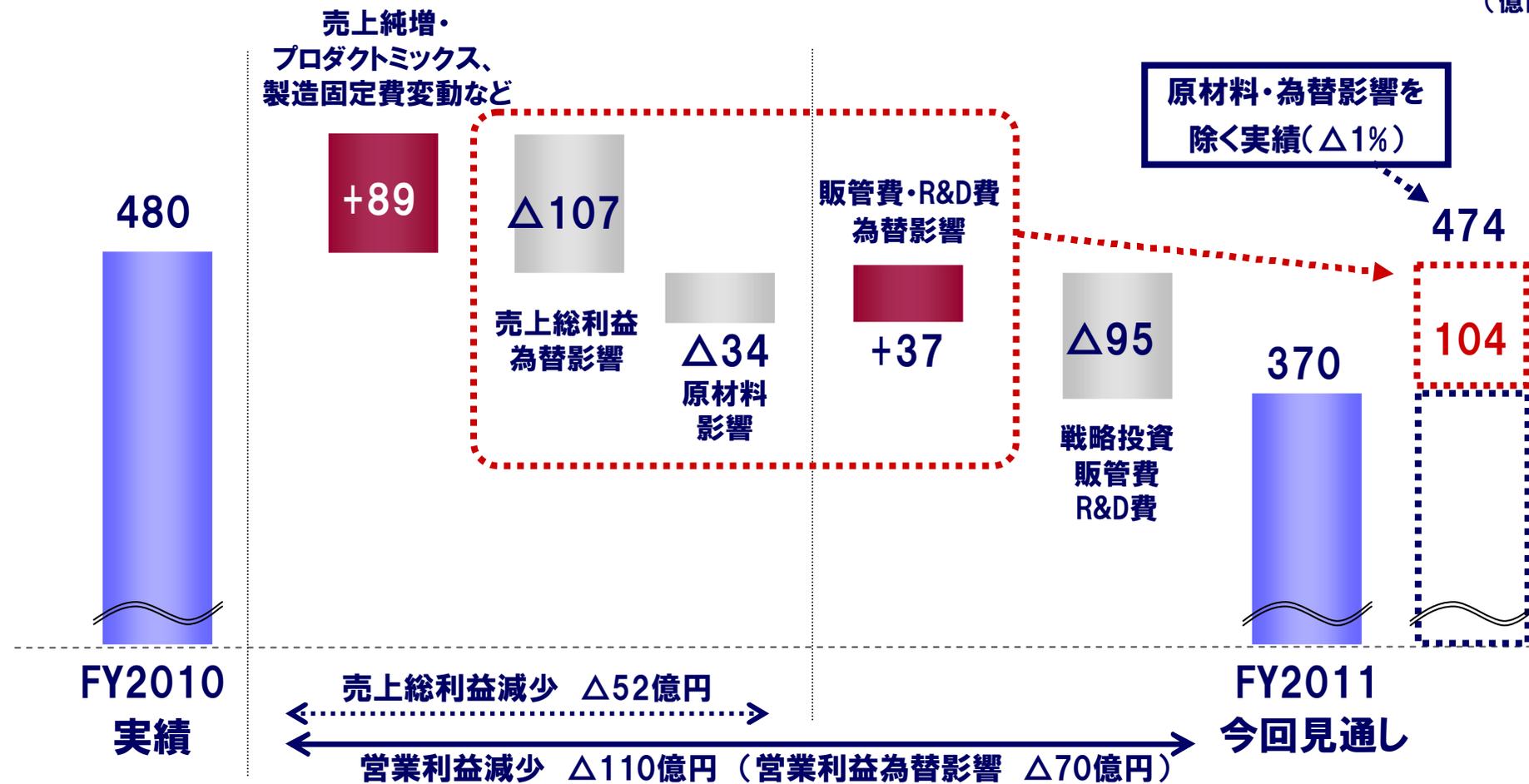
USDレート(円)	78.0	78.4	+0.4	85.8	△7.4
EURレート(円)	109.0	108.3	△0.7	113.5	△5.2



営業利益増減分析(通期見通し) <前期比>

- 売上は為替を除くと純増となるが、為替・原材料の影響、特にVG2020の戦略投資を含む販管費・R&D費の増加により営業利益は110億円の減少
(為替や原材料などのマイナス影響104億円を除くと、実質前年並)

(億円)





事業セグメント別業績見通し(通期見通し)

➤ EMC・HCBは厳しい環境下でも前期比で売上拡大

(億円)

	売上高					営業利益				
	2012/3期 (前回見通し)	2012/3期 (今回見通し)	見通し 比	2011/3期	前期比	2012/3期 (前回見通し)	2012/3期 (今回見通し)	見通し 比	2011/3期	前期比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	2,780	2,680	△3.6%	2,719	△1.4%	370	320	△13.5%	382	△16.3%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	825	830	+0.6%	812	+2.2%	105	80	△23.8%	119	△32.9%
自動車用電子部品事業 (AEC)	820	840	+2.4%	843	△0.3%	30	25	△16.7%	42	△39.9%
社会システム事業 (SSB)	590	580	△1.7%	638	△9.2%	0	0	-	17	-
健康・医療機器事業 (HCB)	615	620	+0.8%	606	+2.3%	30	32	+6.7%	41	△21.5%
その他	510	530	+3.9%	497	+6.7%	△45	△42	-	△47	-
消去調整他(本社)	60	70	+16.7%	63	+11.0%	△30	△45	-	△74	-
合計	6,200	6,150	△0.8%	6,178	△0.5%	460	370	△19.6%	480	△23.0%



<関連トピックス>

(1) サプライチェーンマネジメントのBCP実行



2011年度の災害状況

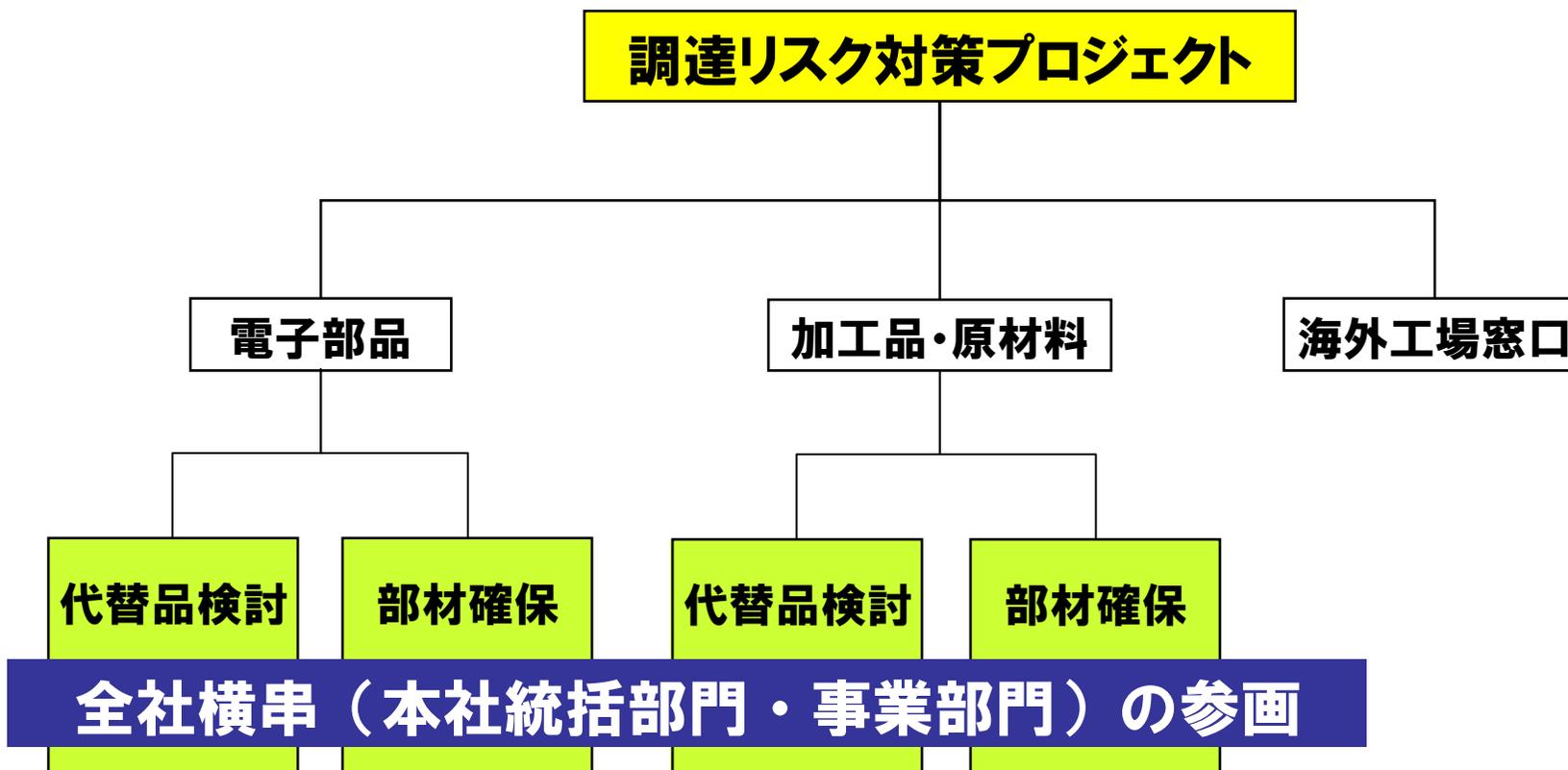
➤ 2つの大きな災害が発生し、多くの企業の生産活動に影響を及ぼした





全社横串のプロジェクト体制

- 本社生産・購買統括部門(グローバル・プロセス革新本部)がリーダーとなるプロジェクトを設置し、全事業部門を対象にグローバルな部材確保・代替品検討を行った
- 部品や商品の優先順位を平時に明確にし、サプライヤーとも共有化することで、有事の調達リスクを回避する体制を構築中





供給責任を果たした具体例

タイの洪水における具体例

AEC生産

一部商品をスピーディーに
日本で代替生産し出荷
4日後に出荷

協力工場と一緒に対応体制を
立ち上げ、その他商品も対応

全社調達

部品調達問題による
売上影響

社内外の連結力を発揮

- ・商品と部品の優先順位
- ・グローバルでの部品調達
- ・グループ内での部品融通
- ・本社から一括の代替部品情報
提供と速やかな設計変更

設計

ほぼゼロに



<関連トピックス>

(2)VG2020の取り組み



実行施策 (2012年1月27日現在)

**IA(IAB+EMC)
事業強化**

中国 BST社買収

グローバル戦略商品 拡充

オートメーションセンタ 世界3拠点 開設

上海リレー工場の移転・増床

次世代コントローラNJ1 発売

**新興国での
売上拡大**

インド・ブラジル
ブランド浸透活動

インド・ブラジル販売ルート強化

IAB中国
販売ネットワーク強化

インド地域本社 設立

IAB中国 営業/SE人員 拡充

新規事業

ウェルネスリンク 拡大

健康サービス事業
NTTドコモ提携

環境事業 NTT西日本と合併
(株)スマイルエナジー設立

省エネソリューション事業 強化



<関連トピックス>

(3)ガバナンス、ディスクロージャーに対する外部評価



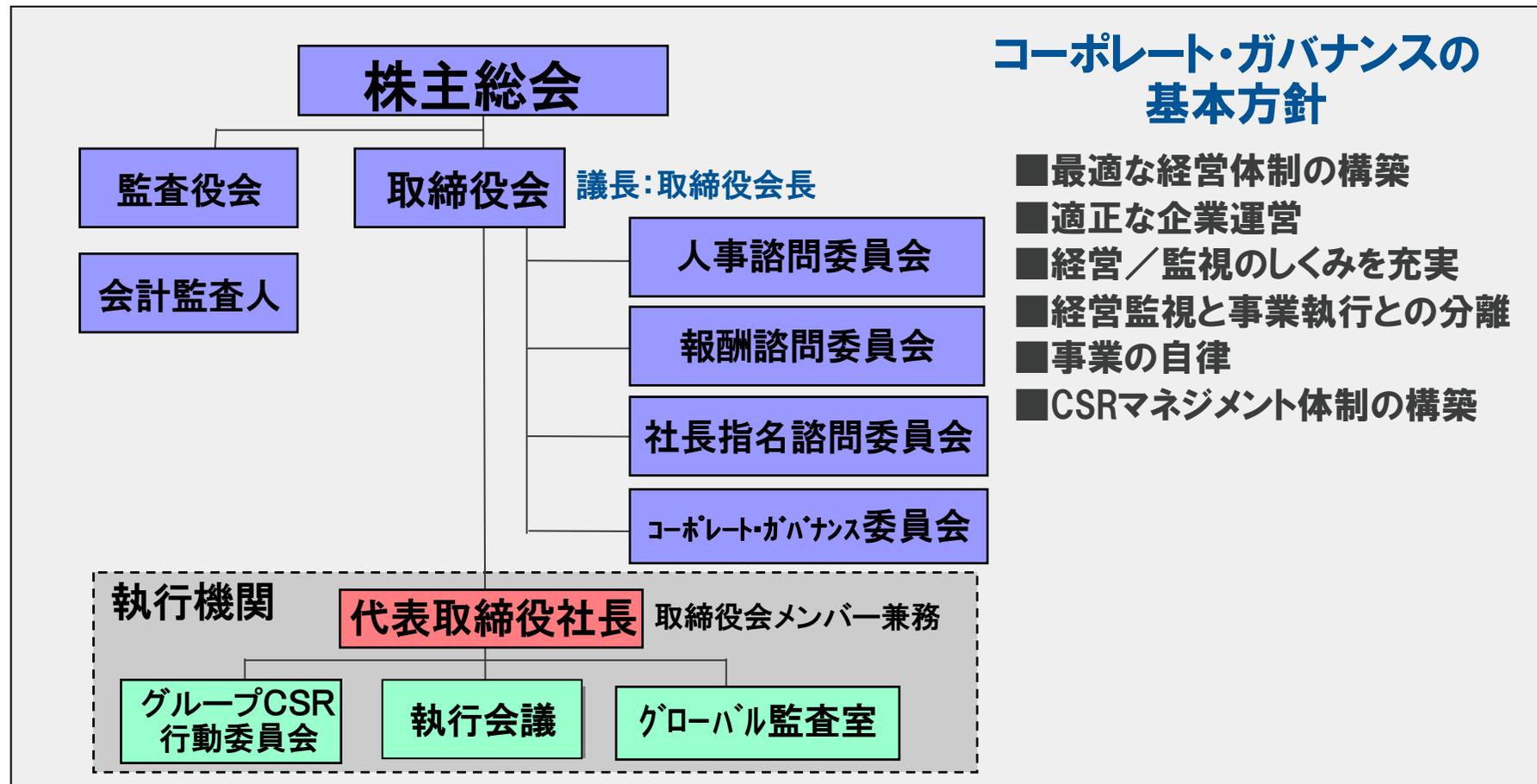
オムロンのコーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスへの取り組みの全体像

	1999年	2003年	2011年
社長	87年～ 立石義雄社長	03年～ 作田久男社長	11年～ 山田義仁社長
取締役議長／CEO	社長が議長とCEOを兼務	会長が議長／社長がCEO	
経営と執行の分離	取締役30名	99年～ 取締役を7名に削減（社外含む） 99年～ 執行役員制度を導入	
アドバイザリー・ボード	99年	アドバイザリー・ボード	
社外取締役		01年 1名	03年～ 2名（取締役7名）
社外監査役	98年 1名	99年～ 2名	03年～ 3名（監査役4名） 11年～ 2名（監査役4名）
諮問委員会	96年～ 経営人事諮問委員会	00年～ 人事諮問委員会 03年～ 報酬諮問委員会	06年～ 社長指名諮問委員会 08年～ コーポレート・ガバナンス委員会
企業理念	1959 社憲制定	90年制定 98年改定	06年改定



- オムロン独自の”ハイブリッド型“を追求(監査役会設置会社の下、委員会設置会社の良さも取り入れた)
- 「企業価値の長期的最大化」を経営目標とし、株主をはじめとするステークホルダーの期待や評価などを通じて継続的に改革を行い、国際社会に通用するコーポレート・ガバナンスを確立



コーポレート・ガバナンスの基本方針

- 最適な経営体制の構築
- 適正な企業運営
- 経営／監視のしくみを充実
- 経営監視と事業執行との分離
- 事業の自律
- CSRマネジメント体制の構築



- **東京証券取引所主催
第2回企業行動表彰**
- **日本証券アナリスト協会主催
ディスクロージャー優良企業賞(第17回)**
- **日本経済新聞社主催
日経アニュアルレポートアワード2011 優秀賞**



参考資料



<為替レートの1円変動による影響額(通期)>

通貨	売上への影響額	営業利益への影響額
USD	約24億円	約7億円
EUR	約7億円	約4億円

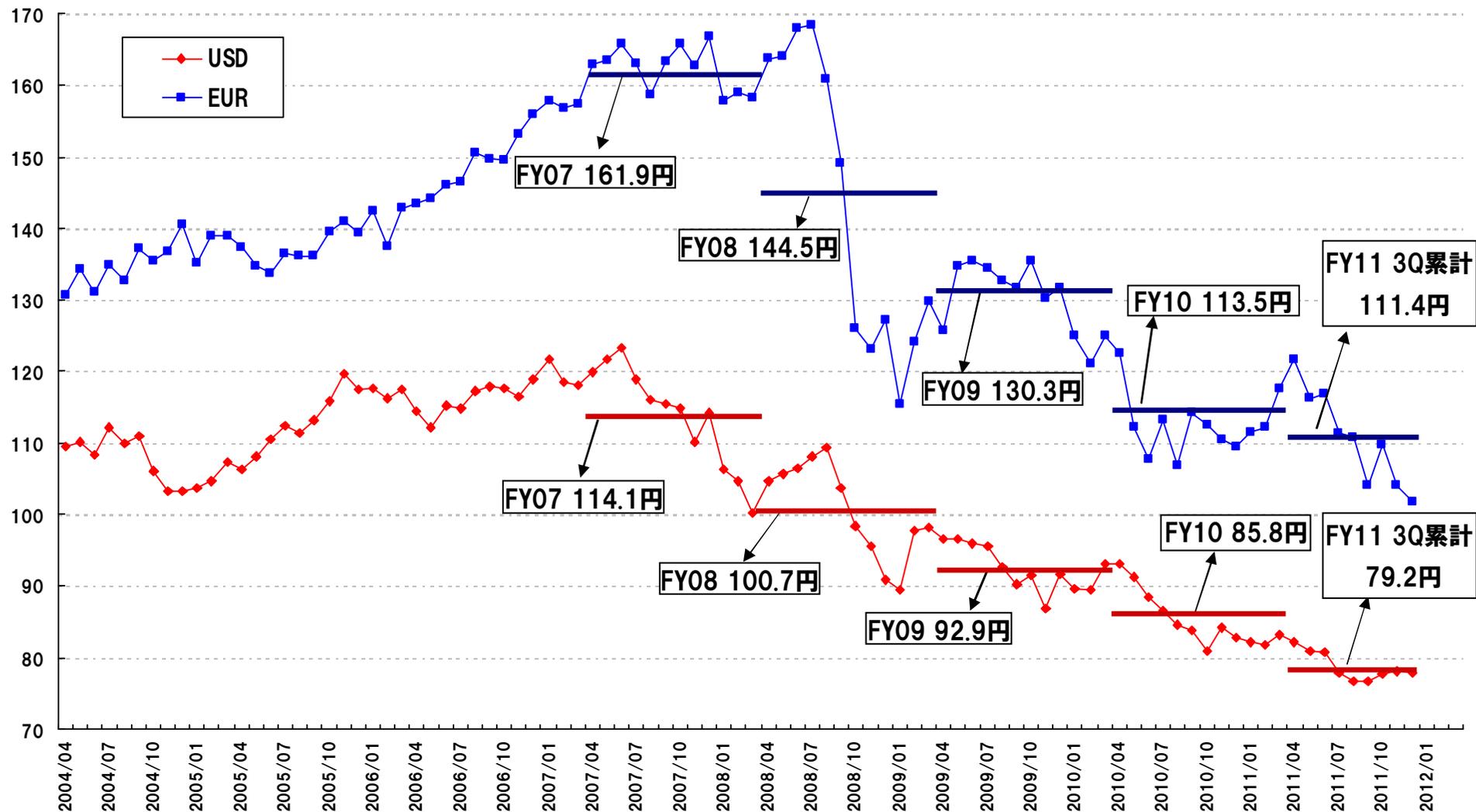
<銀・銅の価格変動による影響額(通期)>

原材料	変動額	営業利益への影響額
銀	100円/kg	約0.1億円
銅	100円/kg	約10億円



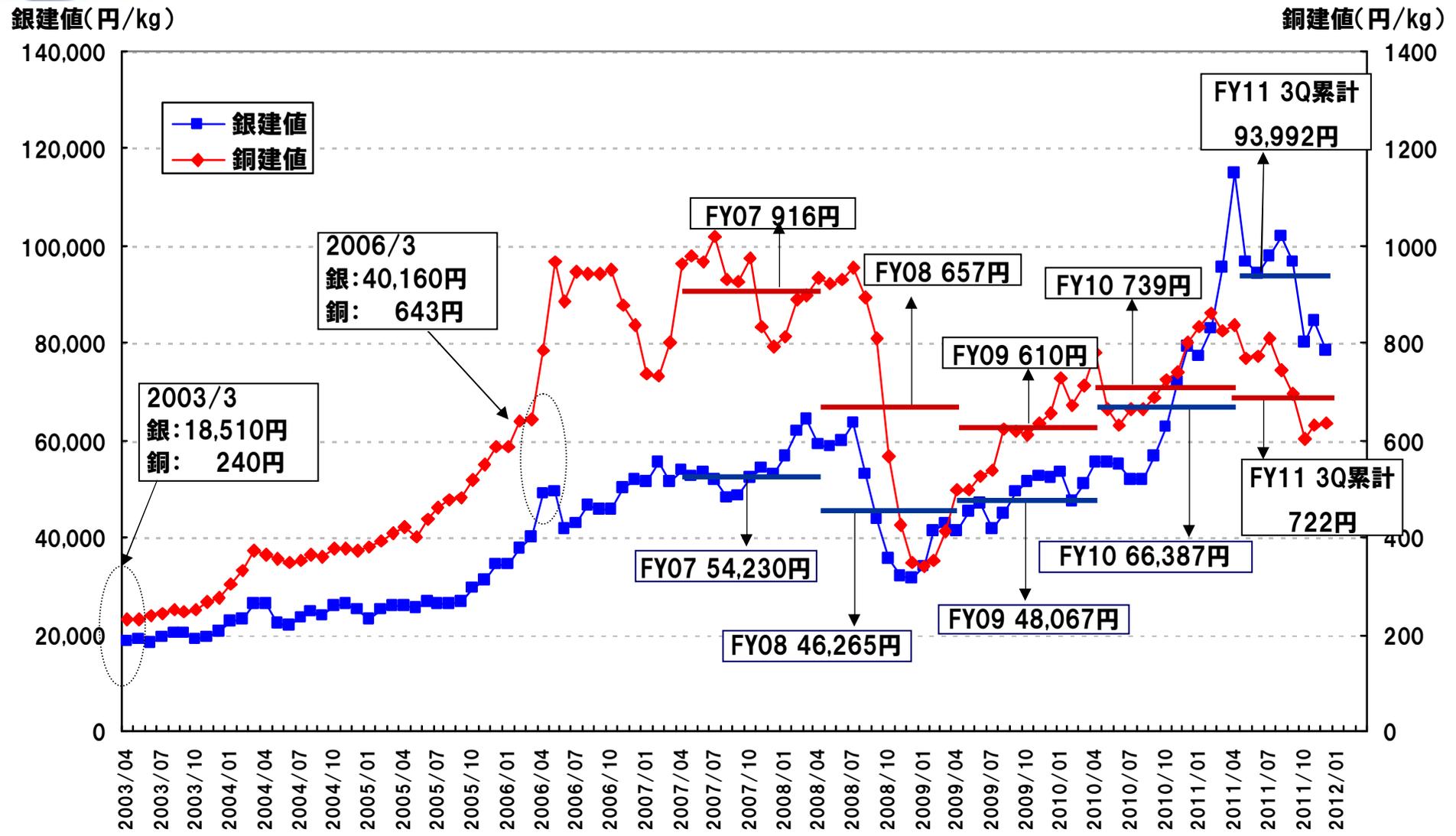
為替レートの推移(ドル、ユーロ)

USD/EUR(円)





原材料価格の推移(銀、銅)



※グラフ中の数値は、期中の建値の単純平均値



オムロンの事業内容

(その他)

液晶バックライト、半導体・MEMS、
省エネ・環境ビジネス、電子機器など

(オートモーティブエレクトロニック
コンポーネンツビジネス)

キーレスエントリーシステム、
パワーウィンドウスイッチ、
電動パワーステアリングシステムなど

- ・電波センシング
- ・ボディ制御

その他

(エレクトロニック&メカニカルコンポーネンツビジネス)

リレー、スイッチ、コネクタ、
アミューズメント機器用部品、
モバイル機器搭載部品など

- ・電気信号センシング
- ・電流・電圧制御

家電・通信用
電子部品事業
(EMC)

自動車用
電子部品事業
(AEC)

工場自動化用
制御機器事業
(IAB)

健康・医療機器事業
(HCB)

(ヘルスケアビジネス)

電子血圧計、体重体組成計、電子体温計、
歩数計、ネブライザ、動脈硬化検査装置、
生体情報モニタなど

- ・生体情報センシング
- ・行動情報センシング

社会システム事業
(SSB)

(ソーシャル
システムズ・ソリューション&
サービス・ビジネス)

自動改札機、自動券売機、
道路情報提供システム、
セキュリティマネジメントシステム、
顔認識システムなど

- ・人センシング
- ・車両センシング
- ・ICカード技術

センシング
&
コントロール

(インダストリアルオートメーションビジネス)

近接/光電/視覚センサ、PLC、温度調節器、
セーフティ機器、各種検査装置など

- ・変位・測長センシング
- ・温度コントロール
- ・マシンコントロール
- ・画像センシング

連結子会社数等

連結子会社数等	154
持分法適用関連会社数	13

※2011年12月末時点



<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績見通し等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なることがあります。実際の業績等に影響と与える重要な要因には、(i)当社の事業領域を取り巻く日本および海外の経済情勢、(ii)当社製品・サービスに対する需要動向、(iii)新技術開発・新商品開発における当社グループの能力、(iv)資金調達環境の大幅な変動、(v)他社との提携・協力関係、(vi)為替・株式市場の動向、(vii)事故・震災などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

<お問い合わせ>

オムロン株式会社
経営IR室 経営IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp